

## 「空き店舗対策連絡会議」で 中心市街地への出店支援を協議

**問** 現在の中心市街地には100店舗を越す空き店舗が点在し、年々その数が増えている状況である。そこで次の点について伺う。

① 個性的で魅力があり集客力はあるが資金力がない店に、行政として、中心市街地の空き店舗へと誘導していくべきと考えるがいかがか。

② テナント料を値下げし、新たな企業や商店を誘致してきた家主に、固定資産税の還付を長期に実施すれば、経営も安定し固定化すると思うがいかがか。

**答** ① 空き店舗問題を解消し、中心市街地を活性化していくためには、個性的で魅力的な店舗を集積させていくことと併せ、出店意欲の向上・定着を促進する仕組みの構築が必要と考えることか

② テナント誘致活動や家賃の引き下げなど自ら努力して中心市街地の魅力向上に取り組む権利者に対して支援を行うことは有意義だと考えていることから、「空き店舗対策連絡会議」で検討し、早期に方向性を固めていく。



▲空き店舗対策が急務の中心市街地

## 他市に誇れる自然体験活動 今後の見直しは

**問** 現在、本市では海浜自然教室を小学5年生が2泊3日で、冒険活動教室を小学4年生が1泊2日、中学1年生が3泊4日で行っている。

これらの体験活動は今日の子どもを取り巻く自然環境、社会環境等の変化の中で、自然の豊かさを知り、自然への畏敬の心や困難に立ち向かう心、集団で助け合っ心などを学ぶ上で有意義であり、特に冒険活動教室は他市に類を見ない日本一事業として高く評価されている。

しかし、県は財政健全化計画で海浜自然教室への補助を打ち切り、また、中学校の教職員からは、冒険活動教室の日数について短縮の要望もあると聞く。

そこで、小中学校におけるこれらの教育活動を、今後、どのように整理して進めるのか伺う。

**答** 本市では、冒険活動センターやとちぎ海浜自然の家を活用し自然体験学習を行ってきたが、平成24年度より小中一貫教育を全市展開するにあたり、これまで小学校と中学校が異なるプログラムで行ってきた活動の見直しを図る必要があることから、昨年度より検討委員会を立ち上げ、教員とともに検討してきた。

検討委員会での意見を参考に、系統的でより充実した活動になるよう、次年度からの実施に向け実施学年、場所、日数などについて早急に結論を出す。



▲冒険活動教室の様子

## 高齢者が安心して 生活するための取り組みは

**問** 高齢者の孤独死、疎外感を解消し、安心した生活のために、次の点について伺う。

① 高齢化が進展するなか、様々な問題が山積しているが、今後どのような施策に重点的に取り組んでいくのか伺う。

② ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯に対し、現在の見守りに加え、社会とのつながりを保つための体制の構築と、緊急時の対応への取り組みについて伺う。

**答** ① 本市では、昨年3月に策定した「にっこり安心プラン」において、「介護予防対策」や「認知症高齢者対策」などを重点的に取り組む施策として位置付けた。

これらの施策については、介護事業所や地域包括支援センター、医療機関、自治会など



▲災害時要援護者支援事業の避難訓練の様子

関係機関が連携し、切れ目のない支援体制を構築することで、より実効性のある取り組みを進めていく。

② 地域包括支援センターや民生委員などの見守りをはじめ、地域での老人クラブ活動などへの支援、生きがい対応型デイサービス事業に取り組んでいる。

また、緊急時の対応として、地震などの災害時に地域ぐるみで助け合う、災害時要援護者支援事業や、急病時などに迅速に対応する、緊急通報システム事業を実施しており、引き続き、より一層の支援・周知に努める。